

事業名	施設利用における インターネット抽選導入						
ジャンル	家庭教育	・	青少年教育	・	成人教育	・	団体育成
日程	令和3年1月10日～	講師	なし	参加費	なし		
対象者	志津公民館利用団体	参加者数 (延べ)	125団体	募集方法	公民館だより・掲示物等		
趣旨	コロナ禍で利用者を集めた抽選会が開催できない状況のなかで、利用者への配慮と事務効率向上のため、現在使用している「ちば施設予約システム」の付帯機能の「電子抽選」を導入するもの。						
内容	①感染症の拡大や、今後予想される災害時においても、公民館としてサークル活動の場を安全に提供していく。 ②より多くの団体が公民館を利用する機会を得るための公平な仕組みを整える。						
工夫	利用者の多くが高齢者であり、その中にはインターネットに不慣れな方も多いことから、導入にあたっては丁寧な説明と周知期間が必要である。既に導入している自治体を参考とし、高齢者の切り捨てと誤解されぬように、準備期間でインターネット抽選の申し込み体験の期間を設け、実際に公民館のパソコンや利用者のスマートフォンで申し込みを体験してもらった。また、抽選会場に行かなくても、ネット環境があれば申し込み期間中なら時間や場所を気にせず申し込みができるため、安全で、便利であることをPRした。						
成果	申し込み体験に来た人へのアンケートでは、半数以上から理解できたとの回答が得られた。また、サークル内や家族がインターネット利用ができるという人が大半であるとの結果も得た。実際に1月に行ったインターネット抽選での参加サークルは125団体であった。コロナ禍で行っていた抽選会の平均参加数は77、8団体であったことから増加傾向と思われる。更に、これまでの抽選会では事前準備（データ作成や会場設営など）や、抽選会後も職員が申し込み内容などを入力する業務があった。ネット抽選に移行したことで今までよりも準備、業務に費やす時間は少なくなり、職員の負担も減った。						
課題	ネット環境が（スマホも含め）全くない方への継続的な対応が必要である。また、視覚障がい者が多く所属する団体に対しては、職員が隣で代理入力するだけでなく、どこからでも申し込みができるインターネットの利点を活かし、システム自体への音声読み上げ機能の実装をシステム提供元へのレベルアップ要望として行っていく必要がある。						

【公民館による事業評価】

項目	評価	視点
必要性	A	<ul style="list-style-type: none"> 公民館が行う必要があるか。 市民や利用者のニーズに合っているか。 目的や役割が薄れていないか。 事業の休止・廃止した場合の影響は大きいかな。
優先性	A	<ul style="list-style-type: none"> 事業の優先度は高いか。
公平性	A	<ul style="list-style-type: none"> 対象者に情報は流れているか。 受益者負担はあるか(実費・教材費)
有効性	A	<ul style="list-style-type: none"> 期待通りの成果が得られているか。 さらに成果を高めるためにやり方の見直しは必要か。 市民の満足度は高いか。
効率性	A	<ul style="list-style-type: none"> 事業の効率性はどうか。 事業運営に学習者が参画しているか。 他事業との統合は考えられるか。
総合評価	A	A：適切で成果が得られている。 B：課題あり、成果はある程度ある。 C：課題あり、成果があまりない。 D：成果が得られていない。
特記	弥富公民館、根郷公民館においても、同時期に公民館施設利用におけるインターネット抽選導入を行った。申込期間や申込件数など、利用者の方が混乱しないよう、3館で調整をすすめ、同一の運用方法で行う事とした。	

《凡例》	← 良し A B C D 良くない	《判定例》	$\begin{matrix} A \\ A \\ A \end{matrix} \left\{ \begin{matrix} A \\ B \\ A \end{matrix} \right. \left[\begin{matrix} A \\ B \\ B \end{matrix} \right] \left[\begin{matrix} A \\ B \\ A \end{matrix} \right] \left[\begin{matrix} A \\ A \\ B \end{matrix} \right] \left[\begin{matrix} A \\ A \\ B \end{matrix} \right] \left[\begin{matrix} A \\ A \\ B \end{matrix} \right]$
------	-------------------	-------	--

次年度展望	②	①：事業拡大 ④：目的達成により終了	②：現状規模で継続 ⑤：統合・改善・その他	③：事業縮小
-------	---	-----------------------	--------------------------	--------

団体育成 施設利用におけるインターネット抽選導入

令和2年度佐倉市公民館運営審議会事例発表

志津公民館 古谷理湖

コロナ禍における 団体育成の危機

団体の存続にむけて守りの1年

新型コロナウイルス感染症
↓
施設利用抽選会中止・縮小
活動する場の確保の
不安定化
↓
インターネット施設抽選実施

相次ぐ団体育成事業の中止

2019年末に新型コロナウイルス感染症が確認されて以降、日本においても感染が大きな拡大を見せ、佐倉市において2021年2月現在、市内の感染者が600人を超える事態となっております。

そうした中で、公民館利用サークルの代表者が一堂に会する「サークル運営研修会」、46年続くサークル活動の発表の場である「志津公民館祭」、子ども達が自ら運営する「志津ジュニアリーダーズクラブクリスマス会」など、団体育成に関する重要なイベントが軒並み中止となりました。さらに、200団体が一堂に会する「施設利用抽選会」の中止・縮小が余儀なくされ、サークル自らが活動する場の確保が困難となりました。

サークル活動の場を公平かつ安全に提供する

* インターネット抽選導入のねらい

今年度はそうした状況の中で基本に立ち返り、公民館として、団体育成の根本となる普段のサークル活動の場を安定的に提供するだけでなく、コロナ禍において、より安全かつ公平な手段として、施設利用におけるインターネット抽選システムの導入を弥富公民館、根郷公民館とともに行いました。これにより志津公民館においては登録している800に上るサークルが、抽選会に集まることなく施設を申し込む機会を得ることが可能となりました

団体育成事業 令和2年度の状況

令和2年4月17日
サークル運営研修会
…新型コロナウイルス感染症
対策による臨時休館の
ため中止

令和2年10月中旬
第46回志津公民館祭
…サークルへのアンケート
結果(中止希望多数)
を踏まえ実行委員会役員
会により中止

令和2年12月初旬
志津JLCクリスマス会
…子どもたちの安全確保
のため、中止

インターネット抽選導入

令和2年4月15日
志津公民館だより247号シ
ステム導入の検討を案内

令和2年10月15日
志津公民館だより248号
システム導入の決定案内

令和2年11月16日
インターネット申込マニ
ュアルの窓口配布開始
佐倉市HP更新

令和2年12月3日～23日
インターネット抽選申込体験

令和3年1月10日
弥富・根郷・志津公民館
インターネット抽選開始

インターネット抽選の概要

	これまでの抽選会	新 インターネット抽選
実施時期	令和2年12月24日まで	令和3年1月10日から
抽選方法	公民館に来館し、くじを引く	インターネットで申込み、 自動システムで抽選 ※家にネット環境のない方は公民館窓口に 設置するPCで入力いただけます
抽選内容	予約を申込み順番	予約を希望する日時と施設
申込日時	利用2カ月前 月初めの平日 8時半～9時半	利用3カ月前10日～24日 24時間
抽選で申し込める 件数	2件	4件
抽選で申し込める 最大時間	8時間 (4時間×2件)	16時間 (4時間×4件)
抽選日	利用2カ月前 月初めの平日 9時半～	利用3カ月前 25日
申し込みの様子		

いくつになっても新しいことに挑戦！インターネット抽選申込体験 R2.12.3～12.23

対象：公民館利用者

内容：テスト環境を構築し、インターネット抽選のリハーサルを行う

※申込不要、随時案内

志津公民館における令和元年度の予約状況は、インターネットからの予約が56%、電話や窓口での予約が44%となり、約4割の団体がインターネットに不慣れであると推測されました。そのため、フォロー体制の一環として、導入1か月前に申込体験会を行いました。

体験者実績数：23人 実際に全員操作していただきました



↑パソコンから申込み



↑スマートフォンから申込み

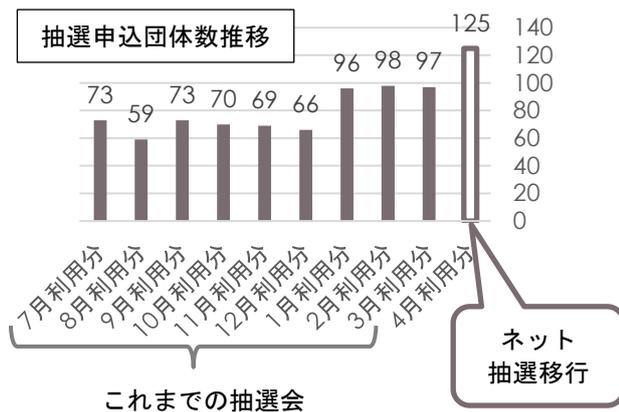
アンケート結果：回答19人分

申込方法の理解／年齢	50代	60代	70代	80代	計
理解できた		3人	4人		7人
まあまあ理解できた	1人	3人	6人		10人
あまり理解できなかった				2人	2人
理解できなかった					
計	1人	6人	10人	2人	19人

事業の成果

①抽選への申し込み団体数増加

これまでの抽選会申し込み平均 77.8 団体
インターネット抽選申し込み団体 125 団体
→より多くの団体がインターネット抽選に
申し込みを行いました。(当選率は 74%)



②安全・公平に施設を予約する機会を提供

コロナ禍において抽選会を実施することに対する不安の声や、安全な方法の検討を望む声(※)が利用者から寄せられており、利用者の安全を確保しつつ、公平な施設利用機会を提供することができたと考えます。

(※) 佐倉市 HP『市政へのご意見』より引用
志津公民館の利用抽選会が(令和2年)4月2日に開催されるとのことですが、未曾有のパンデミックの最中、換気の悪い場所に200人以上、それも抵抗力のない老人が集まる機会を公共団体が自ら開催することは、あまりにもばかっている。クラスターになったら誰が責任をとるのか。インターネットによる抽選にすべきです。

今後の展望

より多くの団体が気軽に抽選へ申し込み、予約を行えるように…そして身近な公民館へ年度が替わると、新たにサークルの施設利用申し込みの担当となられる方が多くいらっしゃいます。そのような方の不安を解消すべく、職員が案内する「インターネット抽選申込体験」など、利用者へより丁寧なフォローを継続して行ってまいります。さらに、気軽に職員と利用者が話せるような雰囲気をつくり、地域によりそえる公民館を目指します。

一方で・・・(課題)

①パソコンなどの新しい情報機器へ苦手意識を持つ利用者へのフォローアップ

抽選の申し込み手段が対面ではなく、インターネットのみとなったことで、口には出さなくても、ハードルの高さを感じる方が多くいると思われます。そうした方が負担に感じることなく、抽選に申し込んでいただけるように、「やり方がわからない」など、抽選へのお問い合わせには、職員と一緒に操作しながら申し込みを行っていただくなど、丁寧な窓口対応を引き続き行ってまいります。

②視覚障がい者への対応

佐倉市の公民館において利用する『ちば施設予約システム』は、現在、視覚障がい者へのサービスである音声読み上げ機能が実装されておられません。そのため、視覚障がい者団体に対しては、利用者のために窓口に設置されたパソコンを使い、職員が代理入力を行っております。団体の方からは、「せっかくなら実装してほしい」との声が上がっておりますので、今後、システムの提供元へレベルアップ要望を行ってまいります。